



セカンド・パーティ・オピニオン

SECOND PARTY OPINION

キリンホールディングス株式会社

キリン・ソーシャルファイナンス・フレームワーク

Prepared by: DNV ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社

Location: 神戸, 日本

Date: 2025 年 2 月 14 日

Ref. Nr.: PRJN-608685-2023-AST-JPN-01_Rev1

報告書サマリー

キリンホールディングス株式会社(以下、キリンホールディングス)は、キリンビール株式会社、キリンビバレッジ株式会社、Lion Pty Ltd、協和キリン株式会社、メルシャン株式会社、Coca-Cola Beverages Northeast, Inc.、協和発酵バイオ株式会社等によって構成されるキリングループの持株会社です。日本及びアジア、オセアニア地域を中心に、祖業より培った発酵・バイオテクノロジーを生かして「食領域」(酒類・飲料事業)と「医領域」(医薬事業)に加え、2つの中間領域である「ヘルスサイエンス領域」(ヘルスサイエンス事業)を展開しています。

キリンホールディングスは2020年にグリーンボンドを発行して以来、これまでソーシャルボンド(2022年)、トランジション・リンク・ローン2回(いずれも2023年)、ソーシャルボンド(2023年)を実行し、ESGファイナンスを活用した環境・社会課題の解決に積極的に取り組んできました。

キリンホールディングスは、長期経営構想「キリングループ・ビジョン2027」において、「食から医にわたる領域で価値を創造し、世界のCSV先進企業となる」ことを目指しています。また、企業としての成長と、社会が抱える課題の解決を同時に実現するために、事業活動そのものが社会課題解決となるCSV(Creating Shared Value=共通価値の創造)を実践することが重要と考え、CSVを経営の根幹に据えて、社会に良いインパクトをもたらす、持続的に成長することを目指しています。この「キリングループ・ビジョン2027」の長期非財務目標として、「CSVパーパス」を策定しました。「CSVパーパス」とは、社会と価値を共創し持続的に成長するための指針であり、今回、「CSVパーパス」に掲げる「健康」における社会課題の解決に取り組むとともに、社会的価値と経済的価値を創出し、社会と共に持続的な成長をつづけていくために必要な資金をソーシャルボンドとして調達するため、2023年に「キリン・ソーシャルボンド・フレームワーク」を策定し、さらに今回「キリン・ソーシャルファイナンス・フレームワーク」(以下、フレームワーク)として改訂し、取り組みを拡大しています。

キリンホールディングスは、DNVビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社(以下、DNV)にフレームワーク評価を委託しています。DNVは外部レビュー機関として、適格クライテリアのソーシャル性について、現在資本市場において幅広く認知されている以下のソーシャルファイナンスの原則やガイドラインで定められる4つの核となる要素を参照もしくは適用し、キリン・ソーシャルファイナンス・フレームワークの適格性を評価しました。

- ソーシャルボンド原則 (国際資本市場協会、2023 以下、SBP)
- ソーシャルローン原則 (ローン・マーケット・アソシエーション等、2023 以下、SLP)
- ソーシャルボンドガイドライン (金融庁、2021 以下、SBGL)

評価結果の概要は、以下の通りです。

要素-1.調達資金の用途：

キリン・ソーシャルファイナンスを通じて調達する資金が、SBP・SLP・SBGLで示される下表の事業カテゴリーについて、フレームワークで定めた適格クライテリアに基づき選定されたソーシャルプロジェクト(以下適格プロジェクト)に対する新規投資及び/又はリファイナンスに充当される計画であることを確認しました。適格クライテリアは、下表及びスケジュール-1を参照してください。具体的には、キリンホールディングスが全世界の人々のより多くの健康課題の解決を通じて更なる経済的価値・社会的価値を創出するための、M&A 資金です。資金用途対象は株式取得額(買収額)のうち、SBP・SLP・SBGLに適合する事業セグメントや商品売上高の割合を按分した額をソーシャルファイナンス充当可能額(評価額)として試算・設定し、その一部にソーシャルファイナンス調達資金を充当する計画であることを確認しました。

要素-2.プロジェクトの評価と選定のプロセス：

ソーシャルプロジェクトの評価と選定は、財務担当部門及びCSV担当部門が適格プロジェクトを選定し、財務担当部門の執行役員が選定された適格プロジェクトの最終決定を行うこと、またプロジェクトの適格性については、「CSVパーパス」達成への貢献性を総合的に評価していることを確認しました。

上記のプロセスを経て評価・選定された適格プロジェクトは、キリンホールディングスの「CSVパーパス」に加えて「持続的成長のための経営諸課題(グループ・マテリアリティ・マトリックス：GMM)」における重要課題のうち「栄養へのアクセス向上」

や「食の安全・安心の確保」、「免疫機能の維持支援」などの社会課題と密接に関連しており、キリンホールディングスの社会的な持続可能性に関する取組みと整合している事を確認しました。また、適格プロジェクト固有のリスクについて、キリンホールディングスが各種デューデリジェンスによるリスク抽出を行い、適切な対応・手続きを実施していることも確認しました。

要素-3.調達資金の管理：

調達資金は、キリンホールディングスが資金調達後、速やかに適格プロジェクトに対する新規投資及び/又はリファイナンスに全額充当する計画であることを確認しました。

資金充当状況については、全額が償還されるまで、キリンホールディングスの財務担当部門が内部管理システムを用いて調達資金の充当状況を管理することを確認しました。

要素-4.レポーティング：

DNV は、調達資金が全額充当されるまでの間、キリンホールディングスがキリン・ソーシャルファイナンスの調達資金の充当状況(充当額および未充当額)を年次でウェブサイト上に公表することを確認しました。またキリンホールディングスは、社会的便益について、調達資金全額が償還されるまでの間、適格プロジェクトで定めた指標に関してレポーティングを実施する予定です。調達資金の全額充当後も、計画または実績に大きな変更が生じる等の重大な事象が生じた場合は、適時に開示する予定です。レポーティングは、キリンホールディングスのウェブサイトにて年次で開示される予定です。

DNV は、フレームワークをはじめとするキリンホールディングスより提供された関連文書・情報から、キリン・ソーシャルファイナンス・フレームワークが、関連する基準を満たし、適格性を有していることを確認しました。

表 適格クライテリア

事業カテゴリー	適格クライテリア	関連する SDGs
<ul style="list-style-type: none"> ■ 必要不可欠なサービスへのアクセス(健康・健康管理) ■ 食料の安全保障と持続可能な食料システム(食料必要要件を満たす、安全で栄養価の高い十分な食品への物理的、社会的、経済的なアクセス・食生活改善・未病対策) 	<p>幅広い地域・年齢層のお客様の健康増進・免疫機能維持にかかる栄養補助食品などへのアクセス向上や、より健康的な商品の研究開発、販売・流通につながり、健康課題の解決に貢献する M&A 資金</p>	  

目次

報告書サマリー	2
Ⅰ. まえがき	5
Ⅱ. スコープと目的	9
Ⅲ. キリンホールディングス及び DNV の責任	10
Ⅳ. DNV 意見の基礎	11
Ⅴ. 評価作業	12
Ⅵ. 観察結果と DNV の意見	13
Ⅶ. 評価結果	18
スケジュール-1 キリン・ソーシャルファイナンス適格クライテリア	19
スケジュール-2 ソーシャルファイナンス適格性評価手順	20

改訂履歴

改訂番号	発行日	主な変更内容
0	2023年9月22日	初版発行
1	2025年2月14日	適用する基準としてソーシャルローン原則を追加し、フレームワークに対する評価についてマスター-SPOとして作成

Disclaimer

Our assessment relies on the premise that the data and information provided by Issuer to us as part of our review procedures have been provided in good faith. Because of the selected nature (sampling) and other inherent limitation of both procedures and systems of internal control, there remains the unavoidable risk that errors or irregularities, possibly significant, may not have been detected. Limited depth of evidence gathering including inquiry and analytical procedures and limited sampling at lower levels in the organization were applied as per scope of work. DNV expressly disclaims any liability or co-responsibility for any decision a person or an entity may make based on this Statement.

Statement of Competence and Independence

DNV applies its own management standards and compliance policies for quality control, in accordance with ISO/IEC 17021:2011 - Conformity Assessment Requirements for bodies providing audit and certification of management systems, and accordingly maintains a comprehensive system of quality control, including documented policies and procedures regarding compliance with ethical requirements, professional standards and applicable legal and regulatory requirements. We have complied with the DNV Code of Conduct¹ during the assessment and maintain independence where required by relevant ethical requirements. This engagement work was carried out by an independent team of sustainability assurance professionals. DNV was not involved in the preparation of statements or data included in the Framework except for this Statement. DNV maintains complete impartiality toward stakeholders interviewed during the assessment process.

¹ DNV Code of Conduct is available from DNV website (www.DNV.com)

I. まえがき

i. 資金調達者について

キリンホールディングスは、キリンビール株式会社、キリンビバレッジ株式会社、Lion Pty Ltd、協和キリン株式会社、メルシャン株式会社、Coca-Cola Beverages Northeast, Inc.、協和発酵バイオ株式会社等によって構成されるキリングループの持株会社です。日本及びアジア、オセアニア地域を中心に、祖業より培った発酵・バイオテクノロジーを生かし「食領域」(酒類・飲料事業)と「医領域」(医薬事業)に加え、2つの中間領域である「ヘルスサイエンス領域」(ヘルスサイエンス事業)を展開しています。

グループ経営理念を、「キリングループは、自然と人を見つめるものづくりで、「食と健康」の新たなよこびを広げ、こころ豊かな社会の実現に貢献します」としています。

ii. 資金調達者の ESG/SDGs への取り組み

キリンホールディングスは、長期経営構想「キリングループ・ビジョン 2027」において、「食から医にわたる領域で価値を創造し、世界の CSV 先進企業となる」ことを目指しています。また、企業としての成長と、社会が抱える課題の解決を同時に実現するために、事業活動そのものが社会課題解決となる CSV (Creating Shared Value=共通価値の創造)を実践することが重要と考え、CSV を経営の根幹に据えて、社会に良いインパクトをもたらす、持続的に成長することを目指しています。

この「キリングループ・ビジョン 2027」の長期非財務目標として、社会と価値を共創し持続的に成長するための指針が「CSV パーパス」です。キリングループは、「酒類事業を営むキリングループとしての責任」を果たし、「健康」「コミュニティ」「環境」という社会課題に取り組むことで、こころ豊かな社会を実現し、お客様の幸せな未来に貢献することを掲げています(図-1 参照)。

「CSV パーパス」を策定するにあたり、社会とともに持続的に存続・発展していくうえでの重要課題を「持続的成長のための経営諸課題(GMM)」に整理しています(図-2 参照)。マテリアリティ選定に当たっては、各課題に対して選定基準を設けています([キリンホールディングス ウェブサイト「マテリアリティ選定基準」参照](#))。また、「CSV パーパス」の達成のための中期アクションプランとして「CSV コミットメント」を設定し、グループ/事業会社の事業計画に組み込んでいます([キリンホールディングス ウェブサイト「2025 年時点 CSV コミットメント一覧」参照](#))。



*1 「企業としての普遍的な責務」は、CSVパーパスには含まれない経営諸課題である“人権”や“人財”、“ガバナンス”、“道義的責任”など

図-1 キリングroupの「CSV パーパス」

● 酒類事業を営むキリングroupとしての責任 ● 健康 ● コミュニティ ● 環境 ● 企業としての普遍的な責務

大 ステークホルダーへのインパクト	● 栄養へのアクセス向上	<ul style="list-style-type: none"> ● 医薬品にとどまらない医療ニーズへの新たな取組 ● 生活習慣病の予防支援 ● 原料生産地と事業展開地域におけるコミュニティの持続的な発展 ● 持続可能な生物資源の利用 ● 持続可能な水資源の利用 ● 容器包装資源の持続可能な循環 ● 気候変動の克服 	<ul style="list-style-type: none"> ● アルコール関連問題への対応 ● 食の安全・安心の確保 ● 医薬品の品質保証と安定供給 ● Life-changingな医薬品の創出と提供 ● ウェルビーイングを育むつながりと信頼の創出 ● 人権の尊重 	
	● 食の選択の自由の確保	<ul style="list-style-type: none"> ● 心身のパフォーマンスの維持・向上の支援 ● コンプライアンスと倫理を重視した事業活動 	<ul style="list-style-type: none"> ● 免疫機能の維持支援 ● 労働安全衛生の確保 ● 価値創造を実現する人財育成 ● ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョンの推進 ● コーポレートガバナンスの実効性向上 ● リスクマネジメントの強化 ● 個人情報の保護 	
	● 租税の透明性確保	<ul style="list-style-type: none"> ● 食に関わる経済の活性化 ● 持続可能な物流の構築 ● サイバー攻撃への対策 	<ul style="list-style-type: none"> ● 健康経営の実現 ● 従業員が生き生きと働くことができる職場の実現 ● グループガバナンスの強化 	
小	中	グループの事業へのインパクト		大

図-2 持続的成長のための経営諸課題(グループ・マテリアリティ・マトリックス)

iii. 資金調達者の環境課題及び社会課題への取組み

キリングroupは、地球環境の課題解決に先駆けとなって取り組むべく、2050年を見据えた長期戦略「キリングgroup環境ビジョン 2050」を2020年2月に策定しています。キリングgroupの環境課題への取組みのひとつとして、気候変動の克服があり、2050年にバリューチェーン全体のGHG排出量をネットゼロにすること、2040年に使用電力を100%再生可能エネルギーへ転換することを宣言しています。2020年12月には、日本の食品会社としては初めて、SBTイニシアチブ(SBTi)の科学的な根拠に基づいた目標である「SBT1.5℃」目標の認定を取得しました。

またキリンホールディングスは2019年に、世界的なプラスチック廃棄物問題の解決に向けた取り組み方針「キリングgroupプラスチックポリシー」を策定し、日本国内のPETボトルにおけるリサイクル樹脂の使用割合を2027年までに50%にすることを宣言しました。「キリングgroup環境ビジョン 2050」では、2050年までにリサイクル材やバイオマスなどを使用した持続可能な容器包装100%化に向けても取り組みを進めることとしています。



図-3 キリングgroup環境ビジョン 2050

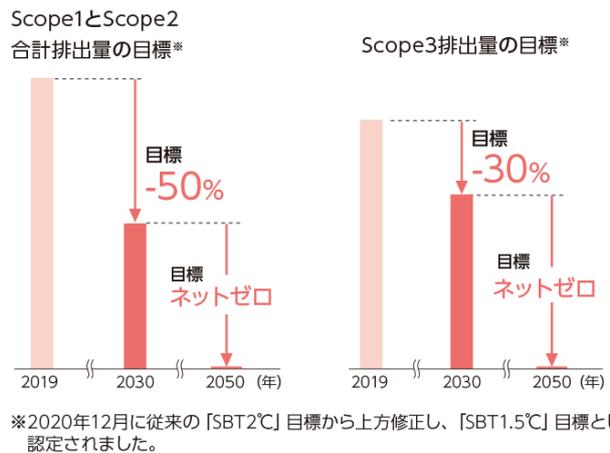


図-4 キリングgroup SBT1.5℃目標

キリングgroupは「CSV パーパス」における重点課題のひとつに「健康」を掲げており、事業展開する地域のすべての人の生きるよこびと心豊かな生活の実現を目指しています。

人々の健康において重要な日々の食事や運動・休息に加えて、世界初のプラズマ乳酸菌などキリン独自の強みである免疫ケアを行うことによって、免疫力を維持・向上させ、人間が元来持っている力を高めることが重要と考えています。土台の健康を整えることによって生活習慣病や脳機能、肌の健康といった「個別の健康課題」の解決に効果的に取り組むことができます。このモデルをM&Aによる強みの掛け合わせを実現することで、お客様への提供価値の最大化を目指しています。

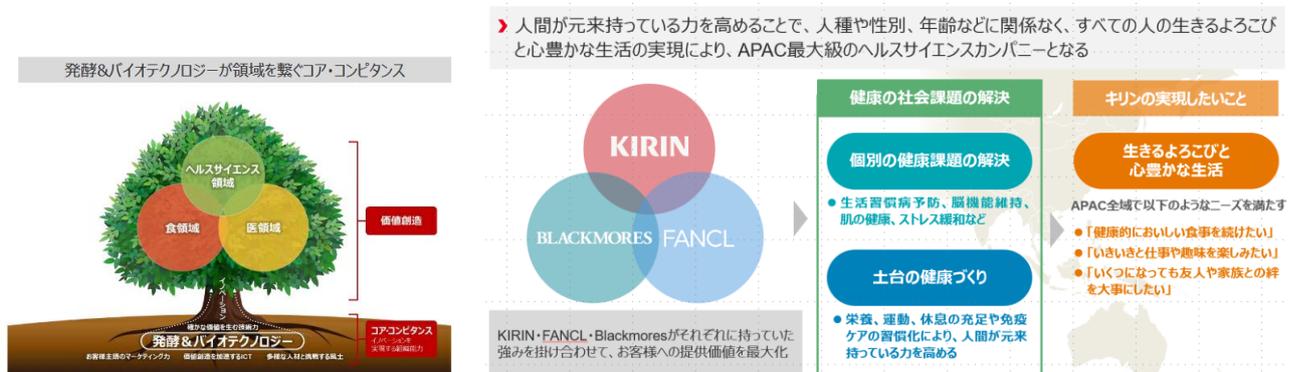


図-5 キリングgroupのコアコンピタンス 発酵&バイオテクノロジー、ヘルスサイエンス事業で実現を目指すこと

iv. 「キリン・ソーシャルファイナンス・フレームワーク」について

キリンホールディングスは、「CSV パーパス」に掲げる「健康」における社会課題の解決に取り組むために必要な資金をソーシャルファイナンスとして調達するため、「キリン・ソーシャルボンド・フレームワーク」を改訂し、本フレームワークを策定しました。このフレームワークが参照した枠組みについては、後述のⅡ項(3)に記載されています。

ソーシャルファイナンスで調達した資金は、下記の適格クライテリアに基づき選定されたソーシャルプロジェクトに充当することを計画しており、フレームワークに基づき管理・実行されます。

表-1 適格クライテリア

事業カテゴリ	適格クライテリア	関連する SDGs
<ul style="list-style-type: none"> ■ 必要不可欠なサービスへのアクセス(健康・健康管理) ■ 食料の安全保障と持続可能な食料システム(食料必要要件を満たす、安全で栄養価の高い十分な食品への物理的、社会的、経済的なアクセス・食生活改善・未病対策) 	<p>幅広い地域・年齢層のお客様の健康増進・免疫機能維持にかかる栄養補助食品などへのアクセス向上や、より健康的な商品の研究開発、販売・流通につながり、健康課題の解決に貢献する M&A 資金</p>	  

II. スコープと目的

キリンホールディングスは、DNV にフレームワーク評価を委託しています。DNV におけるフレームワーク評価の目的は、フレームワークが、後述する基準である SBP・SLP・SBGL に合致していることを確認するための評価を実施し、その適格性についてセカンド・パーティ・オピニオンを提供することです。

DNV は独立した外部レビュー機関としてセカンド・パーティ・オピニオンの提供に際し、キリンホールディングスとは事実及び認識においていかなる利害関係も持たないことを宣言します。また、この報告書では、今後このフレームワークに基づき実行されるキリン・ソーシャルファイナンスの財務的なパフォーマンス、いかなる投資の価値、あるいは長期の社会的便益に関しての保証も提供されません。

(1) レビューのスコープ

レビューは以下の項目について評価し、SBP 等の主要な 4 要素の主旨との整合性について確認されました。

- | | |
|---|---|
| <input checked="" type="checkbox"/> 調達資金の用途 | <input checked="" type="checkbox"/> プロジェクトの選定と評価のプロセス |
| <input checked="" type="checkbox"/> 調達資金の管理 | <input checked="" type="checkbox"/> レポーティング |

(2) レビュー提供者の役割

- | | |
|---|------------------------------|
| <input checked="" type="checkbox"/> セカンド・パーティ・オピニオン | <input type="checkbox"/> 認証 |
| <input type="checkbox"/> 検証 | <input type="checkbox"/> 格付け |
| <input type="checkbox"/> その他： | |

(3) 適用または参照される基準/ガイドライン

No.	基準/ガイドライン	発行者	適用レベル ^{*1}
1.	ソーシャルボンド原則 2023 年版(SBP)	国際資本市場協会(ICMA)、2023	適用
2.	ソーシャルローン原則 2023 年版(SLP)	ローン・マーケット・アソシエーション(LMA)等、2023	適用
3.	ソーシャルボンドガイドライン 2021 年版(SBGL)	金融庁、2021	適用

*1 適用：各原則やガイドラインに共通する 4 要素全てに対する適格性を評価した

Ⅲ. キリンホールディングス及び DNV の責任

キリンホールディングスは、DNV がレビューを実施するために必要な情報やデータを提供しました。DNV のセカンド・パーティ・オピニオンは、独立した意見を表明するものであり、我々に提供された情報を基に、確立された基準が満たされているかどうかについてキリンホールディングス及びキリン・ソーシャルファイナンスの利害関係者に情報提供することを意図しています。我々の業務は、キリンホールディングスから提供された情報及び事実に依拠しています。DNV は、この意見表明の中で参照する選定された活動のいかなる側面に対して責任がなく、キリンホールディングスから提供された情報及び事実に基づく試算、観察結果、意見又は結論が不正確である場合、それに対し責任を問われることはありません。従って DNV は、キリンホールディングスの関係者から提供されたこの評価の基礎として使用された情報やデータの何れかが正確または完全でなかった場合においても、責任を問われないものとします。

IV. DNV 意見の基礎

DNV は、資金調達者であるキリンホールディングスにとってより柔軟なソーシャルファイナンス適格性評価手順(以下、「手順」)を適用するために、SBP・SLP・SBGL の要求事項を考慮した手順を作成しました。スケジュール-2 を参照してください。この手順は SBP・SLP・SBGL に基づくソーシャルファイナンスに適用可能です。

DNV はこの手順に基づく評価により、独立した外部レビュー機関としてセカンド・パーティ・オピニオンを提供します。DNV の手順は、DNV の意見表明の根拠に資する一連の適切な基準を含んでいます。その基準の背景にある包括的な原則は、ソーシャルファイナンスが「社会的便益をもたらす新規又は既存プロジェクトのための資本調達や投資を可能とする」というものです。DNV の手順に従って、レビュー対象である当該キリン・ソーシャルファイナンスに対する基準は SBP・SLP・SBGL で示される、それぞれ 4 つの共通要素にグループ分けられます。

要素1. 調達資金の用途

調達資金の用途の基準は、ソーシャルファイナンスの資金調達者がソーシャルファイナンスにより調達した資金を適格プロジェクトに使わなければならない、という要求事項によって定められています。適格クライテリアは、明確な社会的便益を提供するものです。

要素2. プロジェクトの評価及び選定のプロセス

適格クライテリアに基づくプロジェクトの評価及び選定の基準は、ソーシャルファイナンスの資金調達者が、ソーシャルファイナンス調達資金を用途とする投資の適格性を判断する際に従うプロセスの概要を示さなければならない、また、プロジェクトが目的に対する影響をどのように考慮しているかの概要を示さなければならない、という要求事項によって定められています。

要素3. 調達資金の管理

調達資金の管理の基準は、ソーシャルファイナンスが資金調達者の組織によって追跡管理されなければならないこと、また、必要な場合には、区別されたポートフォリオを構築し、未充当資金がどのように扱われるか公表するという観点で作成されなければならないことが、要求事項によって定められています。

要素4. レポーティング

レポーティングの基準は、ソーシャルファイナンスへの資金提供者に対して、少なくとも、資金の充当状況及び可能な場合には定量的もしくは定性的かつ適切なパフォーマンス指標を用いたサステナビリティレポートを発行する、という推奨事項によって定められています。

V. 評価作業

DNV の評価作業は、資金調達者によって誠実に情報提供されたという理解に基づいた、利用可能な情報を用いた包括的なレビューで構成されています。DNV は、資金調達前の評価では、提供された情報の正確性をチェックするための監査やその他試験等を実施していません。DNV の意見を形成する評価作業には、以下が含まれます。

i. 資金調達前アセスメント

- この評価に資する上述及びスケジュール-2 に関し、キリン・ソーシャルファイナンスへの適用を目的とした資金調達者特有の評価手順の作成。
- このキリン・ソーシャルファイナンスに関して資金調達者より提供された根拠文書の評価、及び包括的なデスクトップ調査による補足的評価。これらのチェックでは、最新のベストプラクティス及び標準方法論を参照。
- 資金調達者との協議及び、関連する文書管理のレビュー。
- 基準の各要素に対する観察結果の文書作成。

ii. 資金調達後アセスメント(*この報告書には含まれません)

- キリン・ソーシャルファイナンス調達後に、資金調達者により提供された根拠書類の評価、包括的なデスクレビューによる補足評価。
- 資金調達者の管理者へのインタビュー及び関連する文書管理のレビュー。
- 現地調査及び検査(必要な場合)。
- 資金調達後時点での対象プロジェクト及び資産のレビュー(スケジュール-1 に記載された内容の更新)。
- 資金調達後アセスメントでの観察結果の文書作成。

VI. 観察結果と DNV の意見

DNV の観察結果と意見は下記の(1)～(4)の SBP・SLP・SBGL に共通する 4 つの要素に対するものです。

(1) 調達資金の使途

DNV は、キリン・ソーシャルファイナンスを通じて調達する資金が、SBP・SLP・SBGL で示される以下の適格クライテリア(表-1)に基づき選定されるプロジェクトに充当される計画であることを確認しました。具体的には、キリンホールディングスが全世界の人々のより多くの健康課題の解決を通じて更なる経済的価値・社会的価値を創出するための M&A 資金です。

資金使途対象は M&A における買収額のうち、SBP・SLP・SBGL に適合する事業セグメントや商品売上高の割合を按分した額をソーシャルファイナンスの充当可能額(評価額)として試算・設定し、その一部にソーシャルファイナンス調達資金を充当します。

DNV は、キリンホールディングスの充当可能額(評価額)の試算方法が妥当であり、評価が適切に運用される社内プロセスが確立されていることを確認しています。

表-1 適格クライテリア(再掲)

事業カテゴリー	適格クライテリア	関連する SDGs
<ul style="list-style-type: none"> ■ 必要不可欠なサービスへのアクセス(健康・健康管理) ■ 食料の安全保障と持続可能な食料システム(食料必要要件を満たす、安全で栄養価の高い十分な食品への物理的、社会的、経済的なアクセス・食生活改善・未病対策) 	<p>幅広い地域・年齢層のお客様の健康増進・免疫機能維持にかかる栄養補助食品などへのアクセス向上や、より健康的な商品の研究開発、販売・流通につながり、健康課題の解決に貢献する M&A 資金</p>	  

SBP・SLP・SBGL で分類される調達資金の使途

- | | |
|--|---|
| <input type="checkbox"/> 手ごろな価格の基本的インフラ設備 | <input checked="" type="checkbox"/> 必要不可欠なサービスへのアクセス |
| <input type="checkbox"/> 手ごろな価格の住宅 | <input type="checkbox"/> 雇用創出(中小企業向け資金供給及びマイクロファイナンス) |
| <input checked="" type="checkbox"/> 食糧の安全保障と持続可能な食料システム | <input checked="" type="checkbox"/> 社会経済的向上とエンパワーメント |
| <input type="checkbox"/> SBP 分類に適合すると考えられる、もしくは SBP には記載されていないが適格性のある領域である | <input type="checkbox"/> その他(具体的に記載) : |

(2) プロジェクトの評価と選定プロセス

DNV はレビューを通じて、キリン・ソーシャルファイナンスにおける適格プロジェクトの評価と選定は、財務担当部門及び CSV 担当部門が協議の上、財務担当部門の執行役員が選定された適格プロジェクトの最終決定を行うこと、またプロジェクトの適格性については、「CSV パーパス」達成への貢献性を総合的に評価していることを確認しました。

上記のプロセスを経て評価・選定されたプロジェクトが、キリンホールディングスの「CSV パーパス」に加えて「持続的成長のための経営諸課題(GMM)」における重要課題のうち、「栄養へのアクセス向上」や「食の安全・安心の確保」、「免疫機能の維持支援」などの社会課題と密接に関連しており、キリンホールディングスの社会的な持続可能性に関する取組みと整合している事を確認しました。

プロジェクト選定に当たって、資金調達者は「Ⅱ.スコープと目的 (3)適用または参照される基準/ガイドライン」に示す適格クライテリアに合致していることを確認すると共に、環境関連法令及び当該地域との協定を順守するほか、社会倫理に適合した誠実な行動を取るために、キリングroupコンプライアンスガイドラインに従うことを確認しました。また、適格プロジェクトに関する ESG 関連の論争が生じていた場合、適切に対処し、開示する予定です。

また、適格プロジェクト固有のリスクについて、キリンホールディングスが各種デューデリジェンスによるリスク抽出を行い、適切な対応・手続きを実施していることも DNV は確認しました。

評価及び選定

- | | |
|--|---|
| <input checked="" type="checkbox"/> 資金調達者の社会貢献目標の達成に合致していること | <input checked="" type="checkbox"/> プロジェクトが定義された適格カテゴリーに適合していることを示した文書化されたプロセスにより評価及び選定されていること |
| <input checked="" type="checkbox"/> ソーシャルファイナンスの調達資金の用途として適格なプロジェクトであり、透明性が確保されていること | <input checked="" type="checkbox"/> プロジェクト実行に伴う潜在的な ESG リスクを特定し、管理していることを文書化されたプロセスにより評価及び選定されていること |
| <input checked="" type="checkbox"/> 公表されている基準要旨に基づきプロジェクトの評価と選定が行われていること | <input type="checkbox"/> (具体的に記載) : |

責任に関する情報及び説明責任

- | | |
|---|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 外部機関による助言若しくは検証による評価/選定基準 | <input checked="" type="checkbox"/> 組織内部での評価 |
| <input type="checkbox"/> その他(具体的に記載) : | |

(3) 調達資金の管理

DNV はキリンホールディングスがキリン・ソーシャルファイナンス実行から償還までの間、どのように資金を追跡管理するかについて確認しました。DNV はキリンホールディングスが資金調達後、速やかに適格プロジェクトに対する新規投資およびリファイナンスに全額充当する計画であることを確認しました。なお、未充当資金が発生する場合は、充当されるまでの間、現金又は現金同等物にて管理する予定です。

資金充当状況については、全額が償還されるまで、キリンホールディングスの財務担当部門が内部管理システムを用いて調達資金の充当状況を管理することを確認しました。

調達資金の追跡管理

- ソーシャルファイナンスにより調達された資金のうち充当を計画している一部若しくは全ての資金は、資金調達者により体系的に区別若しくは追跡管理される
- 未充当資金の一時的な投資の種類、予定が開示されている
- その他(具体的に記載):未充当資金は現金又は現金同等物にて管理される

追加的な開示情報

- | | |
|--|--|
| <input type="checkbox"/> 新規投資のみに充当 | <input checked="" type="checkbox"/> 既存及び新規投資の両方に充当 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 個別(プロジェクト)の支出に充当 | <input type="checkbox"/> ポートフォリオの支出に充当 |
| <input type="checkbox"/> 未充当資金のポートフォリオを開示 | <input type="checkbox"/> その他(具体的に記載): |

(4) レポートニング

DNV は、調達資金が全額充当されるまでの間、キリンホールディングスがキリン・ソーシャルファイナンスの調達資金の充当状況(充当額および未充当額)を年次でウェブサイト上に公表することを確認しました。また、初回のレポートニングは、資金調達後の翌年度に公表する予定です。なお、調達資金の全額充当後、大きな変更が生じる等の重大な事象が生じた場合は適時に開示する予定です。

<資金充当状況>

- ◆ 充当対象となる適格プロジェクト及び充当金額
- ◆ 未充当金の残高及び運用方法

<社会的便益>

キリンホールディングスが、現時点で想定するレポートニング指標については下表の通りです。なお、M&A 後の事業展開に応じて、実務上可能な範囲でその取組内容についてレポートニングする予定です。

表-2 レポートニング指標

適格プロジェクト	アウトプット	アウトカム	インパクト
幅広い地域・年齢層のお客様の健康増進・免疫機能維持にかかる栄養補助食品などへのアクセス向上や、より健康的な商品の研究開発、販売・流通につながり、健康課題の解決に貢献する M&A 資金	M&A を通じた子会社化	<ul style="list-style-type: none"> ・M&A により子会社化した企業の商品へのアクセス ・「機能性素材」「プラズマ乳酸菌」等を活用した商品開発 	「健康な人を増やし、疾病に至る人を減らし、治療に関わる人に貢献」することを目指し、全世界の人々のより多くの健康課題の解決に貢献

資金充当状況に関する報告事項

- プロジェクト単位
- 関連する個々のファイナンス単位
- プロジェクトポートフォリオ単位
- その他(具体的に記載) :

報告される情報

- 資金充当額
- 投資総額のうちソーシャルファイナンスにより充当された額割合
- その他(具体的に記載) :

頻度

- 毎年(充当完了まで)
- 半年ごと
- その他(具体的に記載) :

インパクトレポート(社会的便益)

- プロジェクト単位
- 関連する個々のファイナンス単位
- プロジェクトポートフォリオ単位
- その他(具体的に記載) :

頻度

- 毎年
- 半年ごと
- その他(具体的に記載) :

報告される情報(予測される効果、若しくは発行後)

- 製品の継続使用者数
- その他の ESG 評価項目(具体的に記載) :
M&A により子会社化した企業の商品へのアクセス及び商品開発

開示方法

- 財務報告書に記載(統合報告書)
- 臨時報告書に記載
- レビュー済報告書に記載(この場合は、外部レビューの対象となった報告項目を具体的に記載) :
- サステナビリティレポートに記載
- その他(具体的に記載) : ウェブサイトに開示

Ⅶ. 評価結果

DNV は、キリンホールディングスから提供された情報と実施された業務に基づき、今回キリンホールディングスが確立したキリン・ソーシャルファイナンス・フレームワークが、適格性評価手順の要求事項を満たしており、SBP・SLP・SBGL の「社会への利益をもたらす新規又は既存プロジェクトのための資本調達や投資を可能とする」という、ソーシャルファイナンスの定義・目的と一致しており、適格性を有していることを意見表明します。

DNV ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社

2025 年 2 月 14 日



金留 正人

テクニカルレビューアー

DNV ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社



前田 直樹

代表取締役/SCPA シニアヴァイスプレジデント

DNV ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社



塚崎 旭

プロジェクトリーダー

DNV ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社



宮本 育昌

アセッサー

DNV ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社

About DNV

Driven by our purpose of safeguarding life, property and the environment, DNV enables organisations to advance the safety and sustainability of their business. Combining leading technical and operational expertise, risk methodology and in-depth industry knowledge, we empower our customers' decisions and actions with trust and confidence. We continuously invest in research and collaborative innovation to provide customers and society with operational and technological foresight.

With our origins stretching back to 1864, our reach today is global. Operating in more than 100 countries, our 16,000 professionals are dedicated to helping customers make the world safer, smarter and greener.

Disclaimer

Responsibilities of the Management of the Issuer and the Second-Party Opinion Providers, DNV : The management of Issuer has provided the information and data used by DNV during the delivery of this review. Our statement represents an independent opinion and is intended to inform the Issuer management and other interested stakeholders in the Bond as to whether the established criteria have been met, based on the information provided to us. In our work we have relied on the information and the facts presented to us by the Issuer. DNV is not responsible for any aspect of the nominated assets referred to in this opinion and cannot be held liable if estimates, findings, opinions, or conclusions are incorrect. Thus, DNV shall not be held liable if any of the information or data provided by the Issuer's management and used as a basis for this assessment were not correct or complete.

スケジュール-1 キリン・ソーシャルファイナンス適格クライテリア

キリンホールディングスは、フレームワークにおいて下表のように適格クライテリアを定めています。事業カテゴリーは、SBP・SLP・SBGL で代表例として示されるソーシャルプロジェクト分類です。

今後、フレームワークに基づき実行されるキリン・ソーシャルファイナンスでは、下記の適格クライテリアに基づくソーシャルプロジェクトが適格プロジェクトとして選定され、また、追加的にソーシャルプロジェクトが含まれる場合には事前に発行体により適格性が評価され、必要な場合には DNV により適時評価される予定です。

事業カテゴリー	適格クライテリア	関連するSDGs
<ul style="list-style-type: none"> ■ 必要不可欠なサービスへのアクセス(健康・健康管理) ■ 食料の安全保障と持続可能な食料システム(食料必要要件を満たす、安全で栄養価の高い十分な食品への物理的、社会的、経済的なアクセス・食生活改善・未病対策) 	<p>幅広い地域・年齢層のお客様の健康増進・免疫機能維持にかかる栄養補助食品などへのアクセス向上や、より健康的な商品の研究開発、販売・流通につながり、健康課題の解決に貢献する M&A 資金</p>	

スケジュール-2 ソーシャルファイナンス適格性評価手順

下記のチェックリスト(SBP-1~SBP-4)は、SBP・SLPを基とした、DNVのフレームワーク適格性評価の手順です。評価作業における「確認した文書」は、発行体の内部文書等が含まれ発行体からDNVに対して適格性判断の証拠として提供されています。

SBP-1 調達資金の用途

Ref.	基準	要求事項	評価作業(確認した項目)	DNV観察結果
1a	ファイナンスの種類	ソーシャルファイナンスの種類はSBPで定義される以下の種類のいずれかに分類される。 <ul style="list-style-type: none"> • (標準的)ソーシャルファイナンス • ソーシャルレベニューファイナンス • ソーシャルプロジェクトファイナンス • その他 	確認した文書類： <ul style="list-style-type: none"> • フレームワーク • ソーシャルファイナンス適格性評価資料関係者へのインタビュー 	評価作業を通じ、キリンホールディングスのソーシャルファイナンスは以下のカテゴリーに分類されることを確認した。 (標準的)ソーシャルファイナンス
1b	ソーシャルプロジェクト分類	ソーシャルファイナンスにおいて肝要なのは、その調達資金がソーシャルプロジェクトのために使われることであり、そのことは、ソーシャルファイナンス発行に係る法的書類に適切に記載されるべきである。	確認した文書類： <ul style="list-style-type: none"> • フレームワーク • ソーシャルファイナンス適格性評価資料 • 法定開示文書ドラフト 	資金調達の全額が、以下のプロジェクトに充当される計画であることを確認した。 「必要不可欠なサービスへのアクセス(健康、健康管理)」 「食料の安全保障と持続可能な食料システム(食料必要要件を満たす安全で栄養価の高い十分な食品への物理的、社会的、経済的なアクセス、食生活改善・未病対策)」
1c	社会面での便益	調達資金用途先となる全てのソーシャルプロジェクトは明確な社会面での便益を有すべきであり、その効果は発行体によって評価され、可能な場合は、定量的に示されるべきである。	確認した文書類： <ul style="list-style-type: none"> • フレームワーク • ソーシャルファイナンス適格性評価資料関係者へのインタビュー 	DNVは、ソーシャルプロジェクトが、発行体によって客観的な社会課題であること、地域性の考慮、プロジェクト実行による受益者及び社会貢献(成果)が明確にされていることを確認した。 具体的には、M&Aにより子会社化した企業が取り扱う商品へのアクセス向上等により、「健康な人を増やし、疾病に至る人を減らし、治療に関わる人に貢献」することを目指し、全世界の人々のより多くの健康課題解決への貢献が期待できることを確認した。
1d	リファイナンスの割合	調達資金の全部あるいは一部がリファイナンスのために使われる場合、又はその可能性がある場合、発行体は、初期投資に使う分とリファイナンスに使う分の推定比率を示し、また、必要に応じて、どの投資又はプロジェクトポートフォリオがリファイナンスの対象になるかを明らかにすることが推奨される。	確認した文書類： <ul style="list-style-type: none"> • フレームワーク • ソーシャルファイナンス適格性評価資料関係者へのインタビュー 	ソーシャルファイナンスにより調達した資金はスケジュール-1に掲げる適格クライテリアに基づくソーシャルプロジェクトに新規投資及び/又はリファイナンスとして全額充当予定であることを確認した。また、リファイナンスの割合についてはレポートにて開示する予定であることを確認した。

SBP-2 プロジェクト選定及び評価のプロセス

Ref.	基準	要求事項	評価作業(確認した項目)	DNV観察結果
2a	プロジェクト選定のプロセス	<p>ソーシャルファイナンスの発行体はソーシャルファイナンス調達資金の用途となるプロジェクトの適格性を判断したプロセス概要を示すべきである。これは以下を含む(これに限定されるものではない)。</p> <ul style="list-style-type: none"> 発行体が、対象となるプロジェクトが適格なソーシャルプロジェクトの事業区分に含まれると判断するプロセス ソーシャルファイナンス調達資金の用途となるプロジェクトの適格性についての規準作成 社会面での持続可能性に係る目標 	<p>確認した文書類：</p> <ul style="list-style-type: none"> フレームワーク ソーシャルファイナンス適格性評価資料 <p>関係者へのインタビュー</p>	<p>キリンホールディングスが、財務担当部門及び CSV 担当部門がフレームワークで定めた適格クライテリアを満たすプロジェクト(適格プロジェクト)として選定し、財務担当部門の執行役員が選定された適格プロジェクトの最終決定を行うことを確認した。</p> <p>また、キリンホールディングスが、当該プロジェクトの選定に当たり「適用又は参照される基準」に示す適格クライテリアに合致すると共に、プロジェクトの実行に伴うネガティブな影響を評価、検討し、環境・社会的リスクを事前に確認していることを確認した。</p>
2b	発行体の環境及び社会的ガバナンスに関するフレームワーク	<p>ソーシャルファイナンスプロセスに関して発行体により公表される情報には、規準、認証に加え、ファイナンス資金提供者は発行体のフレームワークや環境に関連する持続性に関するパフォーマンスの品質についても考慮している。</p>	<p>確認した文書類：</p> <ul style="list-style-type: none"> フレームワーク ソーシャルファイナンス適格性評価資料 <p>関係者へのインタビュー</p>	<p>キリンホールディングスのソーシャルプロジェクトは、キリンホールディングスの「CSVパーパス」や「長期経営構想 キリングループ・ビジョン2027(KV2027)」と一致しており、プロジェクトの実行に際しては、環境関連法令、条例、諸規則及び当該地域との協定の遵守、周辺環境への配慮などが考慮されていること、適格プロジェクト固有のリスクについては、各種デューデリジェンスによるリスク項目の抽出を行い、適切な対応・手続きを実施していることを確認した。また、ソーシャルプロジェクトによる社会的便益が明確になっていることを、フレームワーク等の文書確認や関係者へのインタビューを通じて確認した。</p>

SBP-3 調達資金の管理

Ref.	基準	要求事項	評価作業(確認した項目)	DNV観察結果
3a	調達資金の追跡管理-1	ソーシャルファイナンスによって調達される資金に係る手取金は、サブアカウントで管理され、サブ・ポートフォリオに組み入れ、又はその他の適切な方法により追跡されるべきである。また、ソーシャルプロジェクトに係る発行体の投融資業務に関連する正式な内部プロセスの中で、発行体によって証明されるべきである。	確認した文書類： <ul style="list-style-type: none"> • フレームワーク • ソーシャルファイナンス適格性評価資料 • Kirin Group Treasury Policy 関係者へのインタビュー	DNVは文書レビューとインタビューにより、調達した資金に係る手取金は、キリンホールディングスのKirin Group Treasury Policy及び内部管理システムによって追跡可能であることを確認した。またDNVは、実際に使用されているシステム及び関連文書等の確認を行い、これに基づき調達資金の管理状況が証明されることを確認した。
3b	調達資金の追跡管理-2	ソーシャルファイナンスの実行期間において、追跡されている調達資金の残高は、一定期間ごとに、当該期間中に実施された適格プロジェクトへの充当額と一致するよう、調整されるべきである。	確認した文書類： <ul style="list-style-type: none"> • フレームワーク • ソーシャルファイナンス適格性評価資料 • Kirin Group Treasury Policy 関係者へのインタビュー	DNVは、キリンホールディングスがソーシャルファイナンスの実行から償還までの期間、半期毎に調達資金の充当状況を管理する計画であることを確認した。
3c	一時的な運用方法	適格性のあるソーシャルプロジェクトへの投資または支払いが未実施の場合は、発行体は、未充当資金の残高についても、想定される一時的な運用方法を投資家に知らせるべきである。	確認した文書類： <ul style="list-style-type: none"> • フレームワーク • ソーシャルファイナンス適格性評価資料 • Kirin Group Treasury Policy 関係者へのインタビュー	DNVはインタビューを通じて、未充当金の残高がキリンホールディングスの内部管理システム等を通じた確認プロセスにより、逐次認識される仕組みであること、未充当資金の残高が現金又は現金同等物で管理されることをフレームワークの記載及び評価を通じて確認した。また未充当金の残高は、資金充当状況のレポートングを通じて開示される予定であることを確認した。

SBP-4 レポーティング

Ref.	基準	要求事項	評価作業(確認した項目)	DNV観察結果
4a	定期レポートの実施	<p>調達資金の用途及び未充当資金の一時的な投資のレポートに加え、発行体はソーシャルファイナンスで調達した資金が充当されているプロジェクトについて、少なくとも年に1回、以下を考慮した上で、各プロジェクトのリストを提供すべきである。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 守秘義務や競争上の配慮 • 各プロジェクトの概要、期待される持続可能な環境・社会的な効果 	<p>確認した文書類：</p> <ul style="list-style-type: none"> • フレームワーク • ソーシャルファイナンス適格性評価資料 <p>関係者へのインタビュー</p>	<p>DNV は、調達資金が全額充当されるまでの間、キリンホールディングスがキリン・ソーシャルファイナンスの調達資金の充当状況(充当額および未充当額)を年次でウェブサイト上に公表することを確認した。また、初回のレポーティングは、資金調達後の翌年度に公表する予定であり、調達資金の全額充当後、大きな変更が生じる等の重要な事業が生じた場合は適時に開示する予定であることも確認した。</p> <p>(社会的便益)</p> <p>DNV は、キリンホールディングスが、現時点で想定するレポーティング指標については以下を予定していることを確認した。なお、M&A 後の事業展開に応じて、実務上可能な範囲でその取組内容についてレポーティングする予定である。</p> <ul style="list-style-type: none"> • M&Aにより子会社化した企業の商品へのアクセス • 「機能性素材」「プラズマ乳酸菌」等を活用した商品開発